

# 報 広 仙 施

**仙台防衛施設局**  
 総務部広報官編集

仙台市宮城野区五輪1-3-15  
 仙台第3合同庁舎  
 電話 022-297-8208  
<http://www.dfaa.go.jp/sendai/index.html>



松島の日の出 (松島町)

写真提供：小松 巖 氏(OB)

・お知らせ	8 頁
・仙台防衛施設局人事異動	7 頁
・編集後記	7 頁
・事務所だより	7 頁
・在日米軍従業員永年勤続者表彰	6 頁
・法令遵守意識の向上等に関する講演会等開催	6 頁
・仙台防衛施設地方審議会開催	6 頁
・防衛施設庁創立四十四周年部外協力者四氏に感謝状贈呈	5 頁
・防衛施設庁創立四十四周年記念式典	4 頁
・年男の抱負	3 頁
・年頭所感	2 頁
・局長年頭の挨拶	2 頁

## 目次

局長年頭の挨拶

仙台防衛施設局長 酒井 隆

新年あけましておめでとうございます。職員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、すがすがしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、当局における昨年一年を振り返って見ますと、在日米軍再編問題に係る地元調整、具体的にはXバンド・レーダーの車力通信所への配備、三沢飛行場への嘉手納基地等からの移転訓練実施に係る地元了解の取り付け、王城寺原演習場における米海兵隊の実弾射撃移転訓練での小火器実弾射撃訓練の新たな実施、松島飛行場における騒音区域の見直し告示、むつ湾における掃海訓練実施に係る関係漁協との調整等、職員の皆様の協力により懸案事項を処理して参りました。

本年においては、防衛施設庁が廃止され、防衛省に統合されることとなっておりませんが、当局の重要な任務である、我が国の防衛と日米安全保障体制を支える基盤として必要不可欠である防衛施設の安定的な使用の確保を図るという任務は、引き続き行うこととなっております。このことから、従来からの懸案事項の処

理に加え、統合に伴う種々の業務処理を行い、新体制にスムーズに移行することが重要と考えます。



この体制移行をスムーズに行うためには、情報の共有を図り、知恵を出し合いながら、各部各課の協力のもと、職員が一丸となり処理することが必要であります。

これら当局の業務を推進していくためには、当然のことではありますが、網紀の厳正な保持、風通しのよい職場環境の整備、効率的な業務の執行に努めなければなりません。そのためには、職員一人一人の健康が第一と考えます。皆様が健康で、ご家族の皆様共々本年が輝かしい年となりますことを祈念いたしまして、年頭の挨拶とします。

年頭所感

総務部長 沼澤 芳明



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい

新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今年も常日頃からの準備が肝心です。昨年、国際的には北朝鮮による弾道ミサイル発射と核実験等、我が国の安全に影響を及ぼす諸問題が顕在化してきております。また、国内的には事件・事故、今後三十年以内に起こるであろう確率が高まった大規模地震及びその他考えられる不測の事態に対しても、想定とその対応策の検討の準備を怠らないようにしなければなりません。

さて、私たちは、過去の教訓から多くのことを学びました。大多数の職員が厳正な規律の下、職務に邁進している一方で、ごく一部の職員の行為或いは不適切な業務の遂行により、組織全体が一瞬のうちに国民の皆様からの信頼を失うことを肝に銘じるとともに、その信頼回復に努め

ていかなければなりません。よく、季節を表すのに、春夏秋冬という言葉を使いますが、冬は季節の終わりではなく、春を迎えるための始まりの季節なのです。長く厳しく寒い冬の次には必ず暖かい春の淡い日差しが待っています。樹木が張り付いた木の枝にも、雪の下の土の中にももう花木の芽が出ているのです。

九日、防衛省が発足しました。防衛施設庁も昭和三十七年以来四十五年間の歴史に幕を閉じ、本年九月に防衛省の一員として新たに出発することになります。それに伴い仙台防衛施設局の組織改編を行う準備も本格スタートです。

防衛省に統合されても防衛施設行政の重要性はいささかも変わることはありません。防衛施設は、我が国の平和を守る基盤であるとともに、安定的に使用するため、同施設の整備や周辺地域との調和を図るための諸施策等を円滑に推進していくことは私たち職員の務めであり、従来から諸先輩方が築き上げてきた関係自治体、周辺住民の皆様との厚い信頼関係をより大切に誠心誠意取り組んでいかなければなりません。

私たち職員一人一人が、誇りと自覚を持って大海原に出航する船の軸先に立って右舷・左舷・艀に目配り、気配りをしながら舵取りをしていけば、必ずや良き航海が叶うでしょう。それには、皆様方が健康に充分留意しながら健全なる心身を持続し、

日々お互い切磋琢磨するとともに新たな発想の転換を持ち合わせることに必要です。さあ、慌てず、急がず正確・着実に諸問題の解決に向かつて、今年も元気でがんばりましょう。結びに、本年が皆様方にとりまして、幸多い、飛躍の年となりますことをお祈り申し上げます。

**施設部長 越智 文隆**



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、素晴らし

い新年をお迎えになったことを心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国際、国内情勢とも、また、防衛関係にとっても変化の年でした。北朝鮮のミサイル発射、イラクからの自衛隊の撤収、イラク復興の長期化、小泉政権から安倍政権へのバトンタッチなど、一年で日本の内外の環境は大きく変わりました。その中で、当庁関係として、在日米軍の再編、防衛庁の組織改編が大きく進められました。

本年は、防衛庁から防衛省に移行し、防衛施設庁が防衛省に統合されることにより、よりスピーディな基地対策が求められると考えます。基地を支えていたにいたる地元の方々の理解と協力を得るため、これ

まで以上の迅速できめ細やかな対応に努めたいと思います。

私事になりますが、新年は東松島市の奥松島の野蒜海岸で初日の出を拝しました。昇るお日様を背景に多くの願いを乗せた風が舞い上がる風景は、荘厳でした。昨年一年間、様々な人に支えられ無事過ごせたことへの感謝と、今年こそ様々な人を支えられるようになることを祈願しました。

最後に、局職員とそのご家族の皆様のご心と体の健康を心より祈念申し上げますとともに、皆様にとって今年も素晴らしい年となるよう私自身も精進していきたいと思っております。

**建設部長 大木 克彦**



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご家族お揃いで穏やかな気持ちで、良き年をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年の出来事で印象に残っております事柄を上げますと、北朝鮮のミサイル発射実験及び地下核実験実施の発表で、世界中の国が驚き緊迫すると共に、周辺国においては脅威となつたのではないのでしょうか。一方、国内では、北海道佐呂間町での大竜巻による建設事務所等の災害事故、

これも温暖化による影響なのでしょうか。過去にない気象状況が各地で発生しており、何らかの警鐘を発しているかのようにも感じるところであります。

また、うれしい話題としてはトリノ冬期五輪のフィギュアスケートで荒川静香が金メダルを取り、「イナバウアー」が流行語になったこと、また、野球では王ジャパンが、WBC初代世界一になったこと、それぞれその瞬間において日本中が一つになれたことは、うれしく感じたひとときでありました。

このような中、防衛庁は昭和二十九年の発足から五十二年経過した一月九日に防衛省に移行しました。また、当庁は平成十九年度に廃止されその機能は防衛省に統合されることになりましたが、この機をスタートとして、新たな気持ちで、皆様と共に職務に邁進して参りたいと考えております。

平成十九年は、昨年に引き続き、公共投資は減少傾向にあるものの、民間投資は、堅調に推移するものと予測しております。これを反映して、当庁の建設関係予算も相当厳しい状況であります。部隊等のニーズを十分に考慮し、高品質の目的物の建設に最大限の努力を払って参りたいと考えております。

最後になりましたが、職員の皆様とご家族のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

**年男の抱負**

**亥年に生まれて**

**会計課 後藤 正明**



平成十九年は、亥年、である。昭和二十二年、西暦で言えば千九百四十七年に誕生したイノシシも、六十年の歳月を経て、昔風に言えば老境に入る、といったところか。

光陰矢のごとし、とはよくいったものである。歳月人を待たずともいうが、いつの間にか、歳を重ね、未来に目を向けるよりも過ぎ去った過去を懐かしむ、思い出に浸ることが何時しか多くなつた。

私の生まれた年は、当時の敵国「アメリカ」によって占領され、敗戦の悲哀を味あわされて二年目の年であったという。世に「団塊の世代」となる標語が、作家の堺屋太一氏によって人口に膾炙するところとなつたが、いわゆる戦後のベビーブームに生まれた私は、その世代の一員である。なにしろ、生まれた子供の数が半端ではなく、子供心にも競争相手の多さに圧倒されて育つたものである。

さて、その亥年生まれ私だが、「猪突猛進」という言葉は、ある程度当たっているのではないかと、思

う。物事を進めるに当たって、滑り出しはある程度慎重だが、一旦走り出すと止まらない、途中で辺りを見回す余裕を持ち合わせていない、結果が出るまでまっしぐら、という感じが自らの性格判断に現れるような気がする。

あえて、イノシシになぞって我が身を振り返ってみると、若き日は鼻息荒く、鋭利な牙と爪を持ち、獲物（目標）に向かってただひたすら前進あるのみ、時には失敗と屈辱を味わいつつ、それでも明日のあることを信じて生きてきた・・・、というのは可成り大袈裟な言い回しではあるが、年齢を重ねるごとに、何時しか牙は抜け落ち、獲物を捕らえる目と爪は老化の一途をたどり、鼻息の荒さは動悸と息切れにとってかわられ、地響きを立てて大地を躍る丈夫な足は何処へやら、股関節や腰に痛みや痺れを感じるようになってしまった。

ことは体力の衰えに止まらず、氣力にまで及び、本来なら此処で僅かながらも未来に向けた抱負を語るべきであろうが、ちと遅すぎた感がある。あとは、これからの人たちに夢を託し、「防衛施設庁」という名称が官庁組織から消え去っても、四十余年にわたる組織の伝統を顧みて、良き部分は受け継ぎ、新たな組織の中で、着実な歩みを辿って欲しい、ということだけだ。

未来を語れぬイノシシの、年頭に当たっての一言である。

年男を迎えて

建設企画課 上之園 攝生



新年明けましておめでとうござい  
ます。  
四回目の「年男」  
を迎える事になり、

月日の過ぎるのは本人の意志に反して早いものかと、ため息が出ます。最初の時は、「活発でスリムな小学生」だったような・・・それが今ではコレステロールの値が気になる年男になってしまいました。認めたくないのですが、「体年令」「脳年令」共確実に老化しているのも悲しい事実です。今年からは「筋トレ」「脳トレ」を心掛け、次の年男も元氣で迎えたいものです。

「我事において後悔せず」と言う言葉があります。剣豪宮本武蔵の言葉です。誰でも後悔はしたくないものです。ですから、今やれることは一生懸命やる。やり残しはない、と思えるくらいに。そんな意味でしょうか。今年も、この言葉を「実行」出来る事を目標に頑張りたいと思っています。

最近、どちらを向いても、殺伐とした暗いニュースの多い世の中になりましたが、せめて心だけは豊かに堂々と生きて行きたいものです。常に前向きに、常にプラス思考で、常にポジティブに、「人生は楽しまなくては」の精神で激動の時を、悔い

の無いように乗り越えて行きたいと思えます。

最後に、今年も皆様にとつて幸多き年になりますようにお祈り致します。

年男を迎えて

施設管理課 門井 邦夫



新年おめでとう  
ございます。  
年月が経つのは  
早いもので、何時  
の間にか三回目的

年男を迎えることになりました。干支が一巡する「十二年」を周期として、人生は様々に変化していくと言われておりますが、私も前回の年男の時は、結婚という大きな人生の転機があり、家族が一人、二人と増えるにつれ、一家の大黒柱としての責任を自覚し、仕事にも自分なりに頑張ってきました。

今年も、防衛省に昇格、施設庁解体という大きな変化があります。今まで経験した事のない事態に対処していかなければならない為、不安もありませんが、新しい組織に期待と希望を持ち、焦らず、慎重に努め、又「猪突猛進」より、自分と周囲の幸せの為に日々の時間を大切にしていきたいと思えます。

年男を迎えて

施設対策第二課 市川 高志



新年あけまして  
おめでとうござい  
ます。皆様には、  
新しい年を健やか  
にお迎えのことと

お慶び申し上げます。  
今年も「年男」ということなので、目標に向かって頑張る一年にしたいと思えます。

一つ目は、人とのコミュニケーションを大切にすることです。自分が見知りが多く、他人と上手に会話ができない部分があるので、今年はたくさんの人と会話をし、短所を少しでも減らすようにしたいと思います。

二つ目は、仕事と遊びの両立です。施設対策第二課で勤務しもう少して五年になりますが、まだまだ学ぶべき事が多く、反省させられる日々が続いております。いかに効率良く仕事をこなすかという事を課題とし、趣味に費やす時間を少しでも増やせるよう努力していきたいと思えます。最後に、皆様にとつて今年が良い一年となりますようお祈り申し上げます。

防衛施設庁創立四十四周年記念式典

防衛施設庁創立四十四周年記念式典が、十一月一日午前十時から二階

大会議室において行われた。式典は、国歌斉唱で始まり、酒井局長の訓示、続いて永年勤続者に対する表彰が行われた。被表彰者には防衛庁長官、防衛施設庁長官から表彰状並びに記念品が授与された。

◆防衛庁長官表彰  
(二十五年以上勤続者)

- 施設部 越智 文隆
- 施設部 施設対策第二課 坂中 博
- 施設部 施設補償課 明上山 義正
- 施設部 施設補償課 佐藤 正人
- 建設部 建設企画課 西平 松廣
- 建設部 建築課 高橋 司
- 建設部 建築課 相馬 幸仁
- 建設部 土木課 村上 健悦
- 三沢防衛施設事務所 中沢 正隆

以上九名



◆防衛施設庁長官表彰  
(二十年以上勤続者)

- 総務部 総務課 白澤 豊
- 総務部 総務課 浜松真由美
- 施設部 施設取得課 谷 栄一
- 施設部 施設対策第二課 石井 隆
- 建設部 建設企画課 三浦 英紀
- 建設部 設備課 古井 嘉則

以上六名



防衛施設庁創立四十四周年  
部外協力者四氏に感謝状贈呈

十一月一日の防衛施設庁創立四十四周年記念日に当たり、永年にわたり防衛施設の安定的使用に協力された方々の功績に対し、感謝状と記念品を贈呈した。

◆防衛施設庁長官感謝状

つがる市長 福島 弘芳



大和町長 浅野 元



大衡村長 跡部 昌洋



◆仙台防衛施設局長感謝状

東北町長 竹内 亮一



### 仙台防衛施設地方審議会開催

十一月十六日、仙台防衛施設地方審議会が仙台第三合同庁舎七階会議室において開催された。

審議会には、九名の委員、そして当局からは酒井局長を始め越智施設部長、大木建設部長ほか関係者十一名が出席し、里吉施設企画課長の司会で会議が進められた。

会議では、各委員等の紹介、酒井局長からの当庁の建設工事における競売入札妨害（談合）事件に係るお詫びと、防衛施設行政への理解と協力に対する感謝の意を表す旨の挨拶に続き、任期満了に伴い改めて選出された飯岡会長からの挨拶が行われた。

次に、当局の主要事項に関して、福山総務課長から「防衛施設庁解体後の新たな防衛組織について」、越智施設部長から「BMD用移動式レールダムの概要について」、大木建設部長から「建設工事について」それぞれ説明が行われた。

審議会後、自衛隊に対する理解を深めてもらうための現地視察が行われた。委員は、本年度の視察地である陸上自衛隊東北補給処に移動し、補給処本部庁舎会議室において東北補給処整備計画部長からの概況説明を受けた後、需品・衛生整備工場、施設整備工場、第一保管庫、短SAM整備工場、火砲整備工場、装輪整備工場それぞれを視察し説明を受けた。



特に、イラクで使用した装備品の整備、火砲整備工場における武器の解体・整備・組み立ての状況を各委員は関心をもって隊員の説明に耳を傾けていた。

今回の審議会では特に諮問事項はなかったが、委員には、防衛庁が組織の再編を図るなど新たに出発することにより、国民の信頼回復に努めることとしていること、また、米軍再編等、当局が今後実施することとしている施策や、陸上自衛隊の調達、保管、補給または整備について理解を深めて頂いたことから、非常に有意義なものであった。

(施設企画課)

### 法令遵守意識の向上等に関する講演会等開催

平成十九年一月十五日、庁舎二階

大会議室において、職員が法令遵守の意識向上及び高い倫理観の育成等を目的に、部外講師（株）JMC日本経営センター取締役経営コンサルタント幸喜精一郎氏を招き、「公務員倫理・コンプライアンスを考える」と題した講演会を開催した。



当日は、多数の職員が参加し、法令遵守及び公務員倫理の必要性等について熱心に聴講した。



また、昨年十二月三十一日及び二十二日の両日、課長補佐を対象に、公務員倫理に関して部下の指導を目的とした、公務員倫理研修（JKE T）を実施した。



### 在日米軍従業員永年勤続者表彰

青森県内の在日米軍基地に勤務する在日米軍従業員に、慶びの秋が訪れた。平成十八年度在日米軍従業員永年勤続者表彰である。

在日米軍従業員の永年勤続者表彰は、勤続年数十年、二十年、三十年及び四十年の永きにわたり在日米軍基地に勤務した労働者の労をねぎらい、併せて労働意欲等の向上を目的に毎年実施しているもので、今年度は十月二十七日、三沢市の「きざん三沢」にて百七十名がその榮譽を受けた。今年度の対象者は昨年度に比べ約四十名多い。



表彰式は、来賓、職場関係者等多数列席の下、開式が宣言された後、日米両国の国歌演奏、酒井仙台防衛施設局長及びアンジェラ米空軍第35戦闘航空団司令官の式辞に続き、酒井局長、アンジェラ司令官及びラッッシュ米海軍三沢航空基地隊司令から空軍、海軍及びAAFFESの被表彰者の代表に表彰状及び記念品が授与され、その後、来賓の三沢市長から祝辞を頂き、最後に被表彰者を代表して相内ひさ子氏（勤続40年）から謝辞があり閉会した。

**事務所だより**

**高山稲荷神社**

航空自衛隊車力分屯基地に、米軍

による早期警戒レーダー（Xバンド・レーダー）を配備するのに伴い、米軍、関係機関等との調整及び地域住民等の連絡窓口として、当局は、平成十八年四月、つがる市内に現地連絡所を設置して以来、班員二名が交代勤務している。同市内には、五穀豊穡、海上安全、商売繁盛の神様として霊験あらたかと言われる 山稲荷神社が所在しているので、紹介する。

同神社は、南に岩木山、西に七里長浜と日本海、北に十三湖、東に津軽の山並みを見渡す高台に所在する。御祭神は、全国で約三万を数える稲荷神社の総本社たる伏見稲荷大社と同じ稲荷大神（宇迦之御魂命、佐田彦命、大宮賣命）である。境内には三王神社、龍神宮など多くの境内社もあり、それらの神々も稲荷大神と共に篤い信仰を集めている。

同神社の創建期に係る資料はほとんどないが、同神社が三王神社として記載された古地図や、残された伝承を基に、ここは先住民族である津軽蝦夷の時代からの守護神が祀られた神社であり、地方豪族・安東氏の統治時代から三王神社となり、江戸時代になり当地が開墾されてからは稲荷神社になったのだろうと推測する人もいる。

また、同神社の信仰には、農業、商業、工業、漁業、家内安全、病氣平癒、道中守護、憑物落しなど多様な多彩のものがあり、地元を始め遠方の人々の力が同神社を支えてきた。

昔も今も「山のお稲荷様におこもりして祈願すれば願いは叶う」と何日も祈り続ける人が多く、参集殿は宿泊施設としても利用されている（約三百名を収容可）。

百段余りの石段を登り切って拝殿に出ると、眼下には龍神を祀る龍神宮や小神祠公園があり、無数の赤い鳥居（いわゆる千本鳥居）が曲線を描きながら回廊のように続く独特な世界が広がる。その公園には、同神社特有の祈禱師に率いられた個性的信仰を受けて奉納された沢山の小神祠やお狐様が祀られている。

境内手前の高台には、明治二十二年十月三十日に車力沖の日本海で遭難して亡くなった乗組員十九名を偲ぶチェスポロ号遭難慰霊碑が建てられている。

なお、同号の遭難日に当たる平成十八年十月三十日、米軍車力通信所に所属する同レーダーの要員たちが、同慰霊碑を清掃奉仕している。

**編集後記**

新年明けましておめでとうございます。

本年は、施設庁職員にとって歴史的な年となりました。一月九日には、防衛庁が防衛省となり、九月には施設庁が廃止され、防衛省に統合されます。施設局も地方防衛局となりま

不安はありますが、これまで培ってきた知識や経験をフルに活用し、前向きな姿勢で臨めば、道は切り開かれるのではないのでしょうか。施設広報としての発行もあとわずかですが、編集委員一同楽しい紙面づくりに努めたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

**仙台防衛施設局人事異動**

一月十五日付け

（仙台防衛施設局 建設部建設企画課長）

防衛技官 高木 工

兼ねて仙台防衛施設局建設部建築課長を命ずる

（仙台防衛施設局建設部建築課長）

防衛技官 垣田 頼成

熊本防衛施設支局計画課長を命ずる

一月二十六日付け

（仙台防衛施設局施設部 施設企画課施設連絡官）

一等海尉 山口 靖広

鹿屋航空基地隊付を命ずる

海上自衛隊第一術科学校に入校を命ずる

# 防衛施設庁は防衛省に統合されます

平成19年9月、防衛施設庁は防衛省に統合され、仙台防衛施設局は『仙台地方防衛局（仮称）』に改編される予定です。

